

発行13年 1月 9日

あけましておめでとうございます。

旧年中賜りましたご愛顧に心より厚くお礼申し上げます。

魁ニュースは1981年1月より毎月1回皆様のお手元にお送りしてまいりました。内容乏しく誠にお恥ずかしいものですが、いつのまにやら満20年の歳月を経るに至りました。いつまで続けられるか解りませんが、いま暫らくお付き合い下さいますようお願い申し上げます。

20年前の1月の魁基準建値は427円価格帯は400円超～450円以下の欄でありました。平成元年（1989）平成2年（1990）バブっていた頃は450円超～500円以下の価格帯が続きました。以後、円高の影響もあり銅価格は下落を続け平成10年10月以来250円以下の最安値の価格帯が28ヵ月続いております。

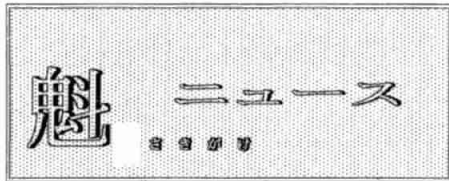
価格面で超優良児であるにも拘らず、軒といや廻し葺きの瓦の下にくる一文字葺きで酸性雨の影響もあって穴明きが発生する事例が数多く発生したことが、他材料への転換を促進させたことは否めませんが、銅屋根そのものは廻し葺き以外では実に耐久性の高い秀でた物であることに変わりありません。適切な使い方と施工のもとでは何十年もアフターケアの不要な優れ者であると私どもは確信しております。

性能保証の件に関しては、現在、銅板条メーカーで鋭意検討中で遠からずご案内できることになると存じます。安い価格で安定している銅板条の使用を積極的にお薦め下さるようお願い申し上げます。

一方、他材料への転換という市場の動向に即応するため、カラーステンレス及びGLカラーなどの成型品「はやぶき」を平成8年（1996）発売開始しましたが、皆様のお引きたてにより順調に増えてきております。多様なカラーのニーズに対応できること、堅い材料にもかかわらず施工性が良いと好評をいただいております。本年も当社は社是の「良い品、安く、迅速に」をモットーに頑張ります。何卒、倍旧のご鞭撻、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

☆ 1月の魁基準建値は243円/kgです

昨年12月の電気銅建値は1～10日240円11～31日250円で推移し平均銅価は247円でした。1月は240円でスタートしましたので今月の魁基準建値は $(247 + 240) \div 2 = 243.50$ 円未満切り捨て243円になります。価格帯は250円以下で前月同様変わりません。



発行13年 2月 1日

寒梅の紅をふくみしばかりなり (宇津木未曾二)

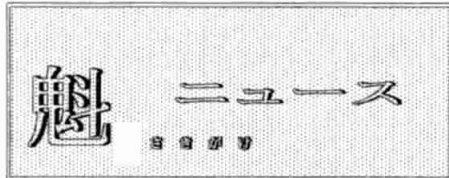
例年なら三月頃に多く見られる太平洋側の積雪が一月に多い。今年の冬は厳しいが、春の訪れが案外早く来ることを教えてくれているのかもしれませんが。流感が流行っていないこともなによりです。大雪で整形外科は繁昌し、内科は閑古鳥が鳴いているかもしれません。

新世紀に入ったというものの私たちの気分は一向に晴れません。連日KSDや機密費等の報道が賑わっているが、税金を真面目に払っている国民からすれば、腹立たしく面白くないことばかりであります。パブルとはいったい何だったのか。崩壊後十年の歳月をかけても、後始末や整理がつかないのは何故なのか。民間は多くの犠牲を払いながら真剣に構造改善に取り組んでいるにもかかわらず、政・官はなにもしていないに等しいが、これはなんともならないことなのだろうか。学力のない、忍耐力のない、公德心の乏しい若者が増えているがどうすればよいのか等々いっばいの疑問に満ち満ちているのが今日の日本です。1月29日付けの天声人語に「この國には掃除しきれていない20世紀がいっばいある」とありましたがまさしくその通りでありませんか。このままなにも手を打たず放置しておいてはこの國は崩壊します。政府や官僚体制が民間と同じように真摯になって構造改善に取り組まねば日本の新世紀は始まらないといえましょう。国民の誰もが抱いているこの逼塞感を打破するために今夏の参議員選挙の結果が起爆剤となって新しい胎動が始まることを期待します。

2月3日付けの週刊ダイヤモンドにかねがねの疑問を明快に解いてくれる記事に出会いました。すでにお読みにになった方もいらっしゃるでしょうがコピーを同封しました。季節は巡り、やがて大好きな春がきます。私達の沈鬱な気分が晴れる日の訪れはまだまだ先のことでしょうが、希望を失わず頑張りましょう。

☆ 2月の魁基準建値は248円/kgです

1月の電気銅建値は1～11日240円12～31日250円で推移し平均銅価は247円でした。2月の電気銅建値は250円で始まりましたので2月の魁基準建値は $(247 + 250) \div 2 = 248$ 円50銭円未満切り捨て248円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。



発行13年 3月 1日

年が明けてアッと言うまもなく2ヵ月が過ぎた。とくに2月は2~3日短いので月代わりが早く、その感が深くなるのだろう。三寒四温、梅花が香り、桜の花芽もころなしか膨らんできている。春はすぐのところまで来ている。大相撲の大阪場所が始まり、プロ野球がオープン戦をこなしながらリーグ開幕に向けて動きだし、下旬には選抜高校野球大会が始まる。進学や就職で人の動きも活発になってくる。大阪ではUSJ(ユニバーサルスタジオジャパン)が4月から正式オープンする。デイズニーランドのようにはいくまいが、バックグラウンドの利もあってそこそこ集客するだろう。人が動けばすこしは景気のムードがよくなることも期待できる。経済地盤低下の著しい大阪に、吉本喜劇とタコ焼にUSJが加わることは喜ばしいことである。

いま、「チーズはどこへ消えた?」(扶桑社)という小冊子が話題になっています。出版されて3ヵ月ではや10版100万冊も売れている超ベストセラーです。この物語には2匹の鼠と二人の小人が登場し「迷路」のなかに住み、「チーズ」を探します。物語は単純ですが深い内容がこめられており、サーッと読み流すだけではもったいないものです。わたくしもこの本で力をえましたので、社員全員に配りました。本屋さんにもいないときはおっしゃってください。すこし手持ちがありますので差し上げます。

季節の変わり目で体調を崩しやすい折柄、ご自愛ください。

☆ 3月の電気銅建値は250円/kgです

2月の電気銅建値は250円で終始しました。3月の建値も250円でスタートしましたので魁基準建値も250円になり価格帯は250円以下の欄で変わりません。平成元年から2年にかけて、電気銅はおおよそいまの倍の価格でした。250円以下の価格帯は30ヵ月続いております。まさにデフレを象徴しております。

官公庁や3月決算の会社は今日から新しい年度が始まる。1年生には嬉しい春である。折しも、桜が満開で一年生でなくても心がなんとはなしに弾んでくるのも春のなせるわざである。雲のごとく咲き雪のごとく散る桜は、風雪に耐えて一気に華やぐその美しさや潔さが人の心をとらえ、日本を代表する花として古より愛されてきた。万葉集では花といえば梅を詠んだ歌が桜より多いが平安朝時代の古今和歌集になると桜100首に梅20首となり花は桜となってくる。

桜といえばやまざくら。そのやまざくらでは、なんといっても奈良県の吉野の山である。桜花爛漫という言葉はここから生まれたのではないかと思われるほど見事である。ロープウェイから見下ろす「下千本」、如意輪寺付近の「中千本」、吉野水分神社周辺の「上千本」、さらに西行庵を囲む「奥千本」と標高200メートルから800メートルあたりまで、谷をうずめ尾根を覆う。その数、数万本といわれ、4月はじめから下旬まで山は花を愛でる人で賑わう。「願はくは 花の下にて春死なむ」と詠んだ西行法師の気持ちが解るような気がする。1300年も昔から多くの人々から愛護されてきたからこそ、いまでもその美しさを失わずにあるのだろう。染井吉野の樹齢は7~80年、やまざくらが100年くらいと聞かすが、我々の祖先が尊び愛し育ててきた桜が、国際親善の印として50ヶ国をこえる国々に贈られ、多くの人々に愛でられていることは誠に嬉しいことである。

関西ではこの吉野山以外に嵐山、円山公園、奈良公園、紀三井寺、大阪城、大阪造幣局などが名所だが、各地にもそれぞれ素晴らしいところがいっぱいあるだろう。どこへいっても人でいっぱいだから、花の下で傾ける酒杯にはなびらを受けるような風情は味わえないが、近くのどこでもいい、今年もよく咲いたねと声をかけ、愛でてやりたい。

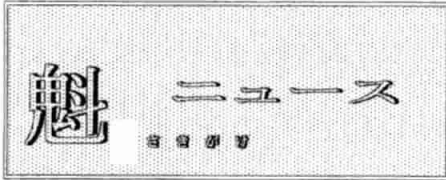
最後に、国の天然記念物に指定されている桜の名木の一部を紹介しましょう。

盛岡の石割桜	岩手県盛岡市丸
常照皇寺の九重桜	京都府北桑田郡京北町
根尾谷薄墨桜	岐阜県本巣郡根尾村
三春滝桜	福島県田村郡三春町
山高神代桜	山梨県北巨摩郡武川村
白子不断桜	三重県鈴鹿市白子町
飛騨一ノ宮臥竜桜	岐阜県大野郡宮村
清雲寺の枝垂れ桜	埼玉県秩父郡荒川村
長興寺紹太寺の枝垂桜	神奈川県小田原市

いずれもが超のつく長寿の巨木のようなです。それぞれ素晴らしい櫻守が花木の世話をしてくれ今日があるのでしょう。できれば全部この眼で見たいものですが、見るチャンスがかぎられてるから、到底不可能でしょう。幸いにして今日はビデオという便利なものがありますから、38ヶ所のすべてを愛でることが可能かもしれません。

☆ 4月の魁基準建値は250円/kgです

3月の電気銅建値は1ヶ月間250円で変わりませんでした。4月の電気銅建値も250円で変わっていません。従って今月の魁基準建値も250円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。3月に入ってかなり円安になってきておりますが、目下それと反比例するがごとく銅のLME価格が下落していますので、為替下落による価格上昇にはなっておりません。



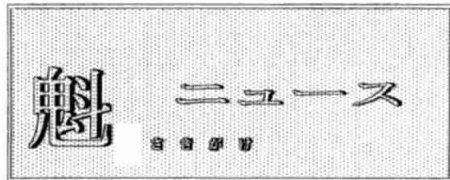
母の日や 塩壺に「しほ」と亡母の文字 川本けいし

企業においても派閥ができやすいが、人事が偏ったり不公平になったり、不協和音を生じて戦力をそぐことになりやすい。政治の世界では、選挙に当選することが何より肝腎で地盤・看板・資金が必須である。昔は政治家になると井戸・堀が傾くと言われたものだが、今日では、政治家で所帯を傾けてしまった話を聞かない。そのことは昨今2代目議員が多く誕生していることから立証される。地盤は地域や業界や団体であり、看板は知名度であり芸能人が引っ張り出されるのはこれゆえである。さて、資金であるがこれは派閥のお世話になる。許認可権、保護規制、あるいは官需に甘い汁を求めるところから献金が集まる。建設族、運輸族、郵政族、厚生族、農林族等々、族議員は官庁と地盤をつなぐパイプ役を務め、政治資金が多くあつまるように活動する。力のある派閥には人も金も多く集まる。最大派閥の大番頭を任じていた金丸氏の金庫に巨額の割引債がしまわれていた事をご記憶だろうか。派閥に逆らうことは自分の首を自分で締めることになるから再選を期す議員は国益を論じ考え行動するのではなく、派閥リーダーのご機嫌を伺い指示を仰ぐ。派閥の結束、隆盛が最優先される政治構造に経済一流政治三流と海外から揶揄されるのも当然である。

さて、いま、久しく続いてきた低次元の政治構造に変化の兆しが見えてきた。予断はできないが小泉内閣の舵取りを見守り、わが国の再生への道標が国民に具体的に解りやすく示されることを期待したい。トンネルのさきがみえるようになれば、国民も目先の景気を云々せず、辛抱できるのだ。もし足をひっぱるものがあるとするれば、それは派閥支配の弱体化をよしとしないところにあるのではなからうか。

☆ 5月の魁基準建値は250円/kgです

4月の電気銅建値は250円のまま推移し5月の建値も250円据え置きでスタートしました。従って5月の魁基準建値は250円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません



5月初旬はカラッと晴れた日が多く、はや初夏の到来かと思われたが、下旬はうって変わってじめじめした日が続き梅雨入りには早いんだがと思うこの頃である。

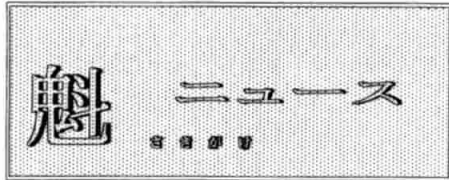
小泉首相の人気はきわめて高く、国会中継の視聴率も高くなっていると聞く。お役人独特の作文でなく自分の言葉で説く話は聞いているほうも解りやすい。しかし構造改革も財政再建も景気回復も一朝一夕になることではない。銀行の不良債権の整理も2～3年で片付けねばと言ってるが、片付けるさきからあたらしい不良債権が発生しているのが現状である。小泉首相がやろうとしていることはどんなに急いでも、その成果が見えるまでかなりの年月がかかることで、短兵急に成ることではない。犠牲者のものであることもある。大切なことはそのことを承知のうえで、国民が辛抱してエールを贈り続けられるかにある。政界には今の状態を極めて不愉快に思っている勢力があり、隙あらばここぞとばかり足をひっぱりにかかるであろう。新聞などのマスコミを抱き込んで世論を動かすこともありうる。だからこそ、我々国民が皮相的判断をせず本質を見抜くよう努めることが肝要になってくる。マイナス成長の経済に耐えることってどんなことか解って小泉政権を応援しているのではなく、旧弊を打破してくれそうだからそれに期待しようというだけの支持率の高さであれば、早晩下がることは必至である。倒産が増え、失業者が増え、治安が悪くなり、売り上げが減り、収入が減るのも暫らくの辛抱だ、いま我慢すればきっと良くなるよと覚悟をきめているなら立派なものだが、そのような懐の深い人は少ない。小淵さんのように景気回復のためなら何でも有りやってくれの声が喧しくなるのではなかろうか。そうなることはわが国にとってけっして好ましいことではないのだがそうになっていきそうで、杞憂になるよう祈りたい。

我々の業界を取り巻く環境はとっくの昔に梅雨入りしており、当分この梅雨は明けそうにない。量は減り、価格も口銭も下がり、資金繰りは窮屈になり、さらなるリストラが必要になってきている。足を洗う体力があればハッピーリタイアだが、その体力がなければ行き倒れである。このような時こそ量の減少と価格の下落を口銭を落とさず質の良い商いでカバーしなければならない。

時節柄皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

☆ 6月の魁基準建値は244円/kgです

5月の電気銅建値は1～15日250円16～21日240円22～31日250円で推移し平均銅価は248円でした。6月の建値は240円でスタートしました。したがって6月の魁基準建値は $(248 + 240) \div 2 = 244$ 円になり、価格帯は前月同様250円以下の欄で変わりません。



発行13年7月2日

梅雨の入りが例年より早かったが梅雨明け宣言も早まりそうである。太平洋高気圧の勢力が強くと梅雨前線を北へ押し上げているようで、今夏は暑い日が長く続き水不足に悩まされる所が多く出そうである。

今月は参議院選挙の月である。小泉人気が続く中、自民党にとっては勢力挽回のチャンスかもしれないが、耐用年数の過ぎた政党が勢力を盛り返すことがはたしてわが国にとって良いことなのかという声も聞こえてくる。

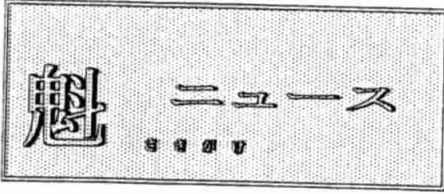
新聞報道によると、韓国漁船による北方領土周辺でのサンマ漁問題を巡って外務省の対応に批判が広がっているそうである。田中外相就任以前から機密費問題が出て、なにかと話題の多い外務省であるが、一国を代表して諸外国と交渉する窓口であるから、交渉事を上手くまとめて当たり前、不利になるようなことがあれば叩かれる。現在北方領土はロシアのものであり日本は日ロ漁業協定をむすび入漁料を払い操業している、韓国もロシアと交渉し入漁料を払いサンマ漁をするのだから話はややこしく日本はロシアに韓国との漁業協定の撤回を求めると、韓国には三陸沖の操業許可を留保すると申し入れいずれも拒否されている。韓国とは教科書問題も抱えている。日本に併合された歴史（明治43年～昭和20年）に対する怨念はいままお強く筋違いの干渉と退けられることではないようである。日清、日露戦争のことは司馬遼太郎著の「坂の上の雲」に詳しいが、そのあとの日露講和条約を結ぶについての両国の交渉については吉村昭著の「ポーツマスの旗」に詳しい。国民は日露戦争に勝ったと思い込み、交渉の全権を託された小村寿太郎外相の弱交渉を報ずる新聞の講和条約の内容を不満とし交渉の決裂と戦争継続を望む声が高まった。激戦に軍事力はこれ以上戦えないほどに疲弊し、一方ロシアは海軍は壊滅的打撃を受けたものの陸軍はシベリア鉄道による大規模な補給が進み、日本陸軍を圧倒する力を備えていたためこれ以上戦えば陸軍は壊滅必至であり、いまを置いて講和を結び戦争を終結させるチャンスはないという苦しい状態だったのだが、軍の実力や戦争出費をまかなう資金力の実態を知らされていない国民に、そのような実情は理解できず戦争に勝ったのに1円の賠償金も払って貰わないそんな馬鹿な交渉はあるかと非難轟々だったのである。ロシアは片腕をうしなしたが日本は腕は残っているがもうそれを動かす体力をすっかり消耗していたのである。そのような日本にとってアメリカが仲介の労をとってくれるのはまさに願ってもないことだったのである。小村寿太郎は目茶苦茶に叩かれたが全権として最大限の働きをしたことを多くの人には知らない。

樺太の南半分を貰い、韓国の支配権を獲得したが、第二次大戦の敗戦で北方四島も失った。今日の日本の外交力では返還を何度要請してもロシアはノーとしか言わない。

軍事力を持たず、アメリカの傘のしたにいる日本を対等に話をする相手と考えていないのである。経済の話には乗ってくるが領土の話は済んでることとかたづけられる。沢山の蟹をロシアの漁船から買っているが、今年からは韓国の漁船からサンマを買うことになりそうである。

☆ 7月の魁基準建値は240円/kgです

6月の電気銅建値は240円で推移しました。7月の建値も240円で始まりました。したがって魁基準建値も240円になります。価格帯は変わらず250円以下の欄になります。



発行13年8月1日

蝉時雨を聴くと子供だった頃を思い出す。夏休みの宿題を気にしながらも遊びほうけて際になって慌てるばかりだったが、町中といってもすぐ近くに田圃や畑や川があって、自然に触れているいろんな遊びに夢中になったものである。遊び疲れてぐっすり寝込み夜中に腹が痛くなって目が覚め、食べたら腹痛がケロッと治まったこともあったっけ。

理科の時間に蝉の一生を習って、その殆どを地中で過ごすことは知っていたが、蝉時雨を聴きながら歩いていて、はてそれ以外はなにも知らんなど気付いて百科辞典を繙いた。

口は細い管になっていて外側の丈夫な管のなかに二重になった毛よりも細い管があり、それを樹皮から樹木の篩管まで射し込み、そこを流れる糖분을吸って養分にする。雌ゼミは8、9月に、枯れた木の枝に両側にのこぎりのついた産卵管で穴をあけて、2、3個づつ卵を産み付け、およそ300ぐらい産む。卵は一冬越して翌年6月下旬から7月上旬梅雨のころ孵化し、幼虫は木をはいおりに地上に達すると、トンネルを堀ながら土中へもぐっていく。木の根に達すると、そのまわりを掘り広げて部屋をつくり、木の根から養分を吸って大きくなる。はじめのうちは口の細い管を根に深くさしこんだまま暮らす、大きくなると、トンネルを堀ながら歩き回る。トンネル掘りで削った土は唾液をまぜて、背中で壁に塗り付けていく。アブラゼミの一生を例にとると次のようになる。

1年目 産卵

2年目 梅雨のころ、卵から孵化し（1齢）10月に脱皮して2齢となる。

3年目 10月に3齢となる。

4年目 10月に4齢となる。

5年目 4齢のまますぎる。

6年目 10月に5齢となる。

7年目 7～9月に5齢から羽化する。

5齢幼虫は羽化の時期になると木の根をたどり、地表すれすれのところまで上がって、そこで夜になるのを待ち、薄暗くなると地表に現われ、草や木にはいのぼって脱皮する。羽化後4日目には腹が粉をふいたように真っ白になり「ジリジリジリジリ」と油で物をいためたときのように雄がなきだす。ニイニイゼミ、クマゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホウシなど、ゼミの種類は多いが大阪の街中で聴くのは、なぜか「シャーシャー」鳴くクマゼミばかりだ。植わっている樹木によるのかもしれない。

盆が過ぎて朝夕がすこし楽になるとツクツクホウシの鳴声を聴くようになるが、この頃になると、こどもが宿題のかけこみに大わらわになるのは、今も同じだろうか。

さて、小泉旋風が無党派の票を呼び込み自民党が圧勝した。これからどうなるのか。構造改革なくして景気回復なし、痛みをともなうが耐えてほしい。これが小泉さんの主張の中核である。国民の過半数がそれを将来のためには止むを得ないと賛同したのだが、はたして改革は進だろうか。

日本が加工貿易国の看板を中国や韓国台湾などに譲ってしまった今日、貿易収支の大幅黒字による富の集積は減退の一路をたどる。国としての経済力の低下は避けられない。財政

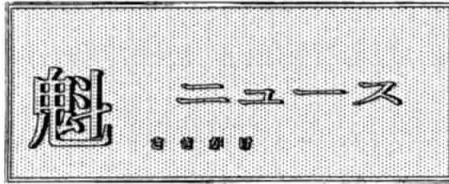
の健全化をはかるには、支出を収入より少なくするようしなければならない。もっとも無駄が多く、税金を食ってると言っても過言でない官業の改革を急がねばならないが、実はこれがなかなかのことで抵抗が特別に執拗で強い。抵抗力の弱い民にのみ痛みを耐えることを求め、官は構造改革の苦しみを負っていないことになりかねないのである。俗な言葉で言うならば、所帯が小さくなったんだから日々の始末が肝腎よと官民こぞって実行しなければならないのである。

国会議員や経済評論家に資産デフレを解消しなければ財政改善も不良債権の解消も景気回復も難しく、そのためには調整インフレ導入を凶れと唱える人がいる。それも一応もってもらいたいご意見だが、はたしてそうだろうか。多少の貯えと年金で生計をたてている人にとっては今のデフレは結構ありがたいのである。これがインフレになったら、たちまち干上がってしまいかねない。あっち立てればこっち立たず。だから国を治めることは古今東西を問わず大変むつかしいのだろう。人間万事塞翁が馬、不幸が幸いをよび、幸福が不幸の種になると悟って、小泉さんにも期待せず、日々の仕事にいそしむのが我々に一番大切なことなのだろう。

しかし、煩惱は考える。ちょうど30年前為替がスミソニアン協定で1ドルが360円から308円になったとき、1ポンドは1008円から864円になった。そのポンドが今日180円前後1ドルは125円前後だ。為替が国家間の経済力を反映するとすれば円は売りで中国元は買いである。いまの中国はかつて高度成長を続け国際貿易で勝ち続けていた日本と同じ道を進んでいる。元が上がる日はそう遠いことではない。だったら元預金をしておこうかと思っても残念ながらその道は閉ざされている。代替に中国株への投資が考えられるがきわめてリスクで火中の栗に手をつっこんで火傷することになるかもしれない。しかし、度胸のある人やパーになってもええわとゆとりのある人にはまたとないご馳走かもしれない。もっと商売のことに頭を使えですって？ほんとにそうですね。

☆ 8月の魁基準建値は227円/kgです

7月の電気銅建値は1～15日240円16～31日230円で推移し平均銅価は234円76銭でした。8月の電気銅建値は220円でスタートしました。従って8月の魁基準建値は $(234.76 + 220) \div 2 = 227.38$ 円未満切り捨て227円になります。価格帯は前月同様250円以下の欄で変わりません。



発行13年9月3日

虫すだく音に秋を覚える。台風のと、猛暑も一緒に去っていったのか、朝夕は極めて快適である。自然の営みは確かで狂いが無い。

人間社会はそうはいかないので、なにかとギクシャクする。IT産業が世界中後退調整期に入り株式市況は各国とも下がっている。米国ダウ平均も10,000ドルを割り、日本の東証平均も10,000台に入ってきた。失業率は5%台に乗りまだまだ増える勢いである。公共投資を減らすとかインフレ誘導策を実行せよとか、目先の景気対策を重視する声も出てきているが、今のところ少数意見で、国民の多くは小泉首相の構造改革の推進を支持している。

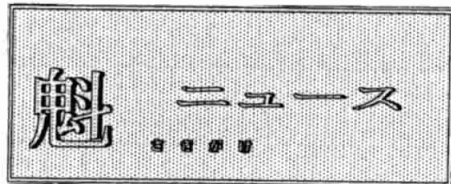
ただ、骨太の方針は出たが具体的なことが明らかになっていない。今月半ば、発表されるらしいが、工程表はさらに時間がかかって年内にまとまるかどうかというところらしい。この作業は各省庁の仕事だが、中央官庁の組織は局、部、は勿論課に至るまで予算の獲得が最大任務と染み込んでいて、それぞれに族議員が絡み、構造改革のガンになっているらしい。2日日曜日のNHKスペシャルの番組で竹中平蔵経済財政担当相が吐露していたことである。小泉首相の構造改革推進を支持した国民がいま待ち望んでいるのは、どんなことがいつ頃どう変わるのかよく解るように説明してほしいという事である。自然の営みは確かな季節の変化をもたらす、いつ春がくるか読めるが、いつまで辛抱したら良いのか解らないでは、不安が増大するばかりで、少数意見に付和雷同する者が増えたりすると、日本は再び失われた10年に逆戻りし世界の信用を失う。先が見えてくれば国民は自助努力し変化に対応できる資質を持っているはずである。

残念なことに自民党幹部に株価の下落や失業者の増大を憂い景気対策を緊急に実行すべしと主張する声の強いことである。株価は先が読めるようになれば勝手にあがるもの、雇傭問題は最優先で多面にわたる対策が必要であるが、労働コストの低下が必至である今日、止むを得ない部分もある。むしろ国会議員は自ら定員の削減や歳費のカットを実行し痛みを共に味わうことが肝要であると思うが、彼らにその動きは見られない。

つまり、自らその権益をすてても、国家の大事のために尽くそうという気概が乏しい。誠に残念でならない。これでは我々のストレスは高まるばかりである。

☆ 9月の魁基準建値は218円/kgです

8月の電気銅建値は1~15日220円16~27日210円28~31日220円で推移しました。9月の電気銅建値は220円で始まりました。従って9月の魁基準建値は $(216 \cdot 52 + 220) \div 2 = 218$ 、26円未満切り捨て218円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。



発行13年10月1日

SF映画を見ているのではないかと眼を疑うような光景に世界中の人々は震撼した。アメリカの金融機能の中枢と軍隊の中枢を同時に襲った前代未聞のテロであった。多くの人命を奪う卑劣な行為は許されるものではない。亡くなった人たちのご家族の心痛は察するにあまりある。またいつどこで起こるか解らない不安を取り除くためにもアメリカがその威信にかけてテロ組織撲滅のため、全力を注いでいること、国民の意識が一丸となって高揚していることはご存じのとおりである。

しかし、このテロ組織の背景や、向けられた矢先がなぜアメリカだったのかなどを考えていくと、そこには民族、宗教の違いによる何千年にもわたる葛藤の歴史があり、一方グローバル化という大義のもと推し進められるアメリカ化を異とする抵抗勢力の影が見えてくる。

中近東とひとくくりに言われる地域はチグリス、ユーフラテス古代文明発祥の地も含めて多くの民族が支配被支配の攻防を繰り返し、戦乱の絶えることの無いところでそこからユダヤ教もキリスト教もそしてイスラム教も生まれた。ユダヤ教やユダヤ民族の話をするとな長くなり、また、本題からはずれるので割愛するが、第2次世界大戦後ユダヤ民族がイスラエル建国を認められ、世界各国に散っていたユダヤ人が戻ってきたため、それまで住んでいたパレスチナ人が追い出され難民化してしまっている間に紛争が絶えない。

イスラム教信者は推定12億人といわれるが近隣諸国は紛争に直接関わることを避けているが反イスラエル色が強く、イスラエルを支持し何かにつけて干渉してくるアメリカを心よしとせず、イラクなどは明らかに反米の姿勢をとっている。

中世1100～1300年約200年間に7回西ヨーロッパ諸国の十字軍の蹂躪殺戮を受けた歴史は反キリスト教につながり、宗教や民族そして文化の相剋に深く染み込んでいるといえよう。イスラム教にもさまざまな教派があり宗教上の義務に聖戦（ジハード）がはいらないものもあるが、異教徒との戦いに命を捧げた者は主のみまえに永遠に生きるとし、また最後の審判の日には、かならず天国に迎えられると信じる人々にとって、十字軍・ユダヤにたいする聖戦のよびかけはその魂を心底からゆさぶるものではないだろうか。そういう人々を相手にしての戦いがこれから始まろうとしているが、はたしてそれがテロのない平和な世界をもたらすことになるだろうか。

中近東は何千年も昔から、絶える事無く血が流されてきたところであり、それがこれからも続くことにわれわれはどうすることもできないのだろうか。

☆ 10月の魁基準建値は211円です

9月の電気銅建値は1～9日220円10～30日210円で推移し平均銅価は212円63銭でした。従って10月の魁基準建値は $(212.63 + 210) \div 2 = 211.31$ 円未満切り捨て211円になり価格帯は250円以下の欄で変わりません。



発行13年11月1日

秋気爽やかな季節になりましたが、明るい話が聞かれません。廃業のご挨拶状がよく届くようになりました。寂しいことですが、ボロボロになって人様に迷惑をかけてしまわないうちに区切りをつけることは、なかなか難しいことで、その見極めには大変な勇気と冷静な判断が求められます。それが出来ることは立派であるとも言えましょう。

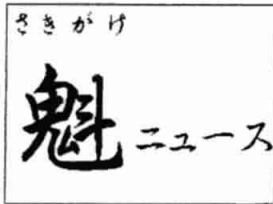
一方、倒産ニュースが身近に頻発してきました。カスリ傷ならなんとか凌げますが、大きな直撃弾を受けようものなら、命運を左右しかねません。われわれが身を置く業界は需要の減退、競争の激化、価格の下落、売掛金の滞留など赤字をもたらす因子に満ち満ちており、地雷のちりばめられた砂漠に警えられます。そこを歩いていくのですから、探知機をしっかりと働かせて、被爆し大怪我をしないよう細心の注意をはらっていかねばなりません。しかし問題はその先です。時間をかけて地雷原を切り抜けた先ははたしてどんな先でしょうか。砂漠でしょうか、僅かの草が生えている荒地でしょうか、それとも緑したたる草原でしょうか。かりにそこが僅かな草しかない荒地だとするなら、そこは適者生存の世界です。体力、知力、気力に勝るもののみが生き残り、劣るものは生存を許されない厳しい世界です。このようなことを考え、予見し、自己の能力と照らし合わせ将来を選択する。今、私たち経営者が求められていることはこういうことではないでしょうか。

明治維新、第2次大戦の敗戦につぐ第3の革新の局面に当たって、今までの延長線には死が待つのみと覚悟し、生存への新しい道を見つけねばなりません。

暗い話の多い年になりましたが、月末頃、嬉しいビッグニュースが聞けることでしょう。皆が待ち望んだ 明るい嬉しい知らせです。

☆ 11月の魁基準建値は210円です

10月の電気銅建値は1～31日210円で終始し11月の建値も210円でスタートしました。したがって魁基準建値は210円になり価格帯は250円以下の欄で変わります。



発行13年12月3日

内親王ご誕生は国民こそってお待ちしていた嬉しいニュースであった。暗い話題ばかりが飛び交う中、文句なしにめでたい事だから、国民の気持ちを明るくしてくれた赤ちゃんの誕生だった。女の子だからいまの皇室典範を改正しないと女性が天皇に就くことはできないが、世論は改正を支持する方向にある。慌てることではないが今世紀の半ばごろにはこの赤ちゃんが国民の敬愛を集める立派な天皇になっておられるかもしれないと思うと、赤ちゃんの顔も早く見たいし、どんな名前がつけられるのか気にかかる。余計なことかもしれないが雅子妃が少子化の流れに掉さしてこれからも頑張ってくださいればさらに国民の喜びも増すことだろう。

ある会合で、久しぶりに牛肉のシャブシャブを食べる機会があった。多くのひとが牛肉を食うのは久しぶりだという。狂牛病のニュースが絶えず、焼肉屋、牛丼屋、精肉店などは売り上げが落ち込んで経営が大変だろう。鎮静化にはなお多くの時間を要するが、牛肉にとどまらず、あらゆる食品が大量生産、効率を求める人為的処理、加えて自然環境の破壊等の影響をうけており、それらを食するわれわれの身体がさまざまな影響を知らぬ間に受けていると考えられる。以前に環境ホルモンのことを紹介したが河川や海も安全でない。あまり神経質になってもどうにもならないから、食べたいものを好きなだけ食べ、後はお任せで行くしかないのだろうけど、家庭菜園に力を入れて新鮮な野菜料理メニューを増やそうと思う昨今である。

本年も残り1ヶ月を切り、終わりを迎えようとしている。総括すれば今年は景気が低迷を続け収益が一段と落ち込み、不良債権が増加した年であった。来年も引き続きますます厳しい状況になるだろう。かかるときは、ひたすら収益のバランスをはかり、お得意先の先まで注意し、貸し倒れの発生を未然に防ぐようにすることが肝要です。

最後に本年中賜りましたご愛顧に心より厚く御礼申し上げますとともに、皆様のますますのご繁栄とご健勝をお祈り申し上げます。

☆ 12月の魁基準建値は220円/Kgです

11月の電気銅建値は1～5日210円6～12日200円13～16日210円19～30日220円で推移し平均銅建値は211円90銭でした。12月の電気銅建値は230円でスタートしました。従って12月の魁基準建値は $(211, 90 + 230) \div 2 = 220$ 円95銭円未満切捨て220円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。